

内定者、握手で交流

大垣西濃信金が懇親会

大垣西濃信用金庫

(大垣市恵比寿町)は、来春に入庫予定の内定者の懇親会を、同市万石の大垣フォーラムホテルで開いた。「Face to Face」を合言葉に、全員が輪になり、一人ずつ握手をしながら自己紹介した。

内定者62人(男性24人、女性38人)のうち、大卒の51人が参加。握手会は、顔と顔を向き合わせた営業姿勢をモットーとする信用金庫のスタイルで交流を深めようと、初めて企画



で手を握っていた。また、俳人・松尾芭蕉ゆかりの地にちなんで、就職への思いを込めた俳句を披露。「若鮎の」とく大きな夢抱き」などと希望あふれる句を詠み上げた。富山大4年の古蔵一路さん(22)は「地域のために働きたい。上司の意見をどんどん吸収し、早く一人前になりたい」と意気込んでいた。(根尾文悟)

握手を交わしながら自己紹介をする内定者。大垣市万石、大垣フォーラムホテル